

「第15回日本在宅医学会大会in愛媛」に参加しよう！

第15回大会長の永井康德先生はじめ大会役員の先生方が鍼灸師、マッサージ師のためのシンポジウムの方を企画して下さいました。

これは、厚労省が今進めております地域医療連携の推進です。私たち鍼灸師をこれからの医療連携の一員としての呼びかけと存じます。

ご承知のように、日本は高齢化率が21%以上の超高齢社会に突入しました。

鍼灸師はこれら高齢者の方々のQOL維持・改善のための医療・福祉サービスを提供することが可能です。

なかでも在宅医療を受療している方々に多い筋肉の緊張による腰痛症には特に有効と思います。

また他の分野として、鍼灸の福祉サービスが考えられます。在宅生活で高齢者のQOLをより低下させる要因として「老年症候群」が考えられます。鍼灸はこの老化そのもの（高齢そのもの）が原因となる老年症候群を推し進める症状に対応できると思います。

1. 認知機能改善
2. 尿失禁改善
3. 口腔機能改善

私たちは、鍼灸師としての医療・福祉分野でのサービスを行いながら、「介護予防運動指導員養成講座」で学んだ老年症候群対策の知識と技能を在宅医療の分野でも活用しています。

それは、鍼灸の知識と技能、介護予防運動指導員の知識と技能（高齢者機能向上トレーニング）を組み合わせ、高齢者の方々のQOL維持・向上に貢献できるはずです。

今後の日本在宅医学会の活動を注目して下さいと共、今大会の参加をぜひ、願申し上げます。

公益社団法人 日本鍼灸師会
介護予防委員会 高田 常雄

生き方に

向き合う

在宅医療

高齢社会から多死社会へ

「人生の最期は病院で…」これまで当たり前のように語られてきたことが、超高齢社会が間近に迫るニッポンで大きな転換期を迎えようとしています。

これまでにない数の高齢者が終末期を迎える時、あるべき在宅医療・在宅ケアとは？

医療の最前線で活躍する人たちが一堂に会してさまざまな問題点や課題を論じ、新たな工夫や仕組みについての発表を、歴史と文化の街、愛媛・松山で行います！

第15回 日本在宅医学会大会

in 愛媛

3/30(土)・31(日)

松山道徳

<http://www.tampopo-clinic.com/zaitaku2013/>

会場：ひめぎんホール

〒790-0843 愛媛県松山市道後町2丁目5番1号

【大会事務局】

医療法人ゆうの森 担当：木原・前島

〒791-8056 愛媛県松山市別府町444-1

Tel：089-911-6333 Fax：089-911-6334

E-mail：zaitaku15@tampopo-clinic.com

市民公開講座
4 講座開催

入場
無料

後援：愛媛県、松山市、日本医師会、日本訪問看護財団、日本理学療法士協会、日本作業療法士協会、日本言語聴覚士協会、日本介護支援専門員協会、日本鍼灸師会、愛媛県看護協会、愛媛県社会福祉協議会、愛媛県介護福祉士会、愛媛県鍼灸マッサージ師会、愛媛県鍼灸師会、松山市社会福祉協議会

プログラム一部で紹介

医師だけではなく多職種協働および患者・ご家族など当事者参画型の学会を目指す日本在宅医学会では、この大会を通し、在宅医療に関わる多職種の皆様と、様々なテーマについて、論じ、考え、学びあいたいと考えています。

講演・シンポジウム

- 多死社会を迎えて在宅医療が果たす役割
- 病院が変われば在宅医療が変わる
- 生き方に向き合う在宅医療
～高齢社会から多死社会へ～
- どうすれば開業医が在宅医療に
参入できるか
- 「食」を支援する多職種連携
- 認知症の人の生き方に向き合う
- 被災地に学ぶ
～医療過疎地域で在宅医療をどう展開するか～
- 介護職の医療行為導入でどう変わったか
- 小児在宅医療の展望

ワークショップ

- 行列のできる在宅相談所
多職種連携向けグループワーク
- 在宅指導医大会

市民公開講座

- 命に向き合う時
～胃ろうと延命～(演劇による)
- 高齢者虐待に対応する
- 施設での看取りを考える
～看取りの障害になっているものは何か～
- 次の災害時に現場からどう動けるか?
外部はどう支援できるか?

ランチョンセミナー

- 地域でのエンドオブライフを支える
～訪問看護が地域連携の調整役に～
- 在宅で肺炎を治す呼吸リハビリ
- 平穏死・10の条件
- おしこの悩みどうしてます?
- 在宅医療における医療用麻薬の上手な
使い方

職種別交流会

- 多死社会に向けて在宅医療の鍵となる
訪問看護を普及させるためには?
- どうする、どうなる、リハビリ業界!
- ケアマネさんいらっしゃい
～明日からもっと楽しくなるヒント～
- ヘルパーの視点で考える看取りのケア
- 日本在宅医学会の中心で
訪問マッサージ・鍼灸の意義を叫ぶ
- 訪問薬剤師への道
～3人の待業薬剤師による実践報告と全体討議～
- 新規問合せの事務説明から看取り後の
集金まで
～各クリニックのツール紹介や困難事例
ディスカッション～
- 在宅クリニックの運営や経営、人材確保
や育成、集患などなど、そのノウハウに
迫ります!

参加方法

<http://www.tampopo-clinic.com/zaitaku2013/>

【参加費用】

参加区分	事前申込
医師・歯科医師 (日本在宅医学会員)	10,000
医師・歯科医師 (非会員)	11,000
コメディカル・一般 (日本在宅医学会員)	3,000
コメディカル・一般 (非会員)	4,000
学 生	2,000
抄 録 集	1,000

【申込方法】

大会ホームページの「参加申し込み」のページよりお申込みください。

※当日申込は、事前申込(2月28日まで)より1,000円高くなります。
(学生、抄録集をのぞく)

※参加証は、大会2日間有効です。

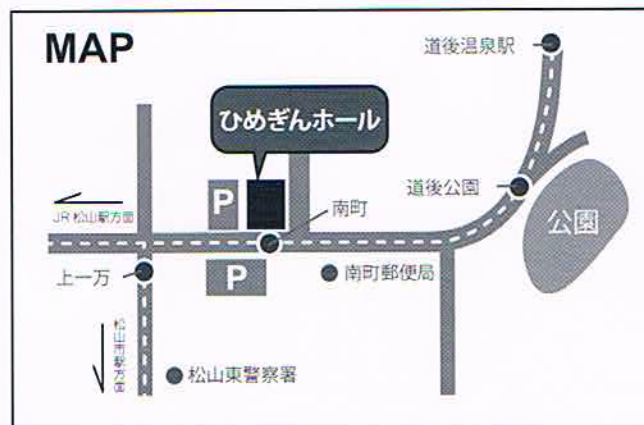
※2日間とも企業協賛によるランチョンセミナー(無料のお弁当付)が
多数実施されます。

※事前申込は、2013年2月28日(木)までです。

これ以降は当日申込となりますので、宿泊、懇親会の予約申込はできません。

会場：ひめぎんホール

〒790-0843 愛媛県松山市道後町2丁目5番1号



四国・松山 湯のまち 道後温泉へ

大会の開催会場(ひめぎんホール)は、道後温泉から路面電車
で約3分の近さ! 2013年の日本在宅医学会大会は、春爛漫の温泉地
での開催です。

あのミシュランガイドブックに☆☆☆で紹介されたこともある「坊
ちゃん湯」は市営の公衆浴場。築110年余の木造三階建てで、国の
重要文化財指定、『千と千尋の神隠し』の油屋のモデルになったとも
いわれる有名な場所です。

第15回日本在宅医学会大会事務局

〒791-8056 松山市別府町444-1

医療法人ゆうの森 担当: 木原・前島

TEL: 089-911-6333 E-mail: zaitaku15@tampopo-clinic.com

第 15 回 日本在宅医学会大会 プログラム別 詳細情報

カテゴリー	交流会
タイトル	訪問鍼灸マッサージ師交流会 日本在宅医学会の中心で、訪問鍼灸・マッサージの意義を叫ぶ ～医療・介護と連携できる鍼灸師・マッサージ師になるために～
日 時	平成 25 年 3 月 30 日（土）15：10～17：10
会 場	真珠の間B
演 者	社団法人東京都鍼灸師会会長 公益社団法人日本鍼灸師会理事 高田常雄氏、 医療法人ゆうの森 たんぼぼクリニック院長 矢野博文氏、医療法人ゆうの森 在宅医療連携拠点たんぼぼ リーダー 一井美哉子氏
企画趣旨	<p>在宅医療・在宅介護において大切なことは、「患者の生活を丸ごとみる」という視点です。ただ、病院のように24時間患者をそばでケアをすることはできないため、患者の元を訪れる医療・介護スタッフ同士で情報を共有し、連携してケアにあたることが重要であることは在宅医療・介護に関わる者にとって共通の認識となっています。</p> <p>そして、団塊の世代が高齢者の仲間入りをする日本は、超高齢社会から、1年間に生まれる人より亡くなる人が多くなるという「多死社会」へと向かいます。増え続ける高齢者を従来のように病院で受け入れ、看取るということが不可能となる状況で、その代替システムとしての在宅医療や介護、在宅での看取りのニーズが今後さらに高まっていくことは明白です。実際に国の施策でも、医療と介護、病院・施設と在宅をスムーズに連携させる仕組み「地域包括ケアシステム」の構築が進んでいます。</p> <p>在宅医療・在宅介護が国の方針として推進される中で、そこに私たち鍼灸師・マッサージ師に確たる居場所や役割はあるのでしょうか。医療関係者・介護関係者から、信頼できる連携相手として認められているのでしょうか。</p> <p>鍼灸師、あん摩・マッサージ・指圧師は、他職種と連携して施術を進めるということを養成段階で深く学ぶ機会を持たず、連携の概念のないまま多（他）職種と連携が必要な在宅医療・介護の現場に出ているといっても過言ではないと思います。</p>

連携の概念やノウハウのないことが、多（他）職種とのコミュニケーション不足や誤解、軋轢を生む原因になっているかもしれません。

また、他職種から見れば、患者や利用者の満足度は高いものの、鍼灸師・マッサージ師が何をしていて、どう連携していけばよいのかわからず躊躇しているというのが現実ではないでしょうか。

療養費制度の問題は複雑な事情が絡み合い、個々の鍼灸師・マッサージ師のレベルでどうにかできる問題ではありませんが、在宅医療・在宅介護の現場において、自分たちの力で自分たちの価値を高めることはできると考えます。

私たち鍼灸師・マッサージ師が、患者と家族からの信頼を得るだけでなく、医療者や介護者からも信頼される連携相手となり、在宅医療・在宅介護の中で欠かせない存在、地域の人々にとって頼られる存在となったとき、鍼灸師・マッサージ師を取り巻く環境も今とはまったく違ったものになるのではと期待しています。

この交流会が、自分たちの未来は自分たちで切り開くのだという勇気を持っていただくきっかけになればと考えています。

本交流会では高田常雄氏をお招きし、目指すべき訪問鍼灸師像、マッサージ師像についてお話いただきます。また、在宅医、連携室看護師から見た訪問鍼灸マッサージ師への期待や課題を知ること、どうすれば在宅医療・介護と連携できる鍼灸師・マッサージ師になれるのかを考えていきたいと思えます。さらに、在宅医、ケアマネジャー、鍼灸師・マッサージ師それぞれに行ったアンケートの結果報告、グループワークを取り入れた座談会を行なう予定です。

「ありがとう」「楽になった」とおっしゃってくださった在宅患者様のためにも、鍼灸師・マッサージ師の存在意義をこの日本在宅医学会で叫ぼうではありませんか。